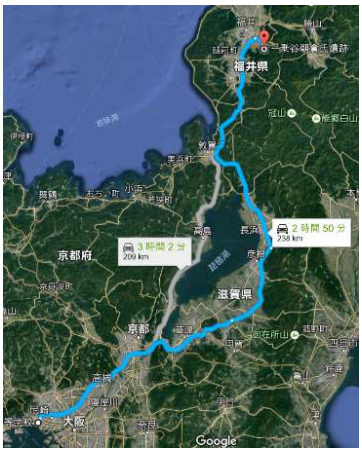
A A F 2 0 1 6 交 流 支 援 プ ロ グ ラ ム 報 告

【一乗･創造の谷プロジェクト（福井市鹿俣町）← たてじまアートプロジェクト実行委員会（兵庫県西宮市）】

「文 化 資 源 とアートのつなぎ方 を考 えるトークセッション」実 施 報 告 書

＜実施日＞　2016 年 11 月５日（土）～11 月６日（日）
＜招聘者＞　一乗・創造の谷プロジェクト（福井市鹿俣町）　朝倉由希さん
＜訪問者＞　たてじまアートプロジェクト実行委員会（兵庫県西宮市）
　　浅野吉英　中川浩之　宇高洋子　津田郁子　４名



約２００ｋｍ、高速道路で約３時間。経済的にも結びつきの強い関西と北陸・福井。兵庫県西宮市甲子園で活動する「**たてじまアートプロジェクト**」が、福井市鹿俣の「**一乗・創造の谷プロジェクト**」さんと交流しました。

1. プロジェクト概要

● たてじまアートプロジェクト

「**たてじまアートプロジェクト**」は、兵庫県立西宮今津高等学校美術科選択授業「今津プロデュース」から生まれた、地域を元気にするアートプロジェクトです。
西宮今津高校は、阪神タイガースの本拠地 阪神甲子園球場から一番近い県立高校。
すぐ裏にある甲子園浜は、かつての「**じびき網漁**」好漁場。阪神間で唯一自然浜が残っており、市民に親しまれています。昭和 42 年に埋め立てられることになった時、計画を知った地元小学校ＰＴＡを中心とした住民が集団訴訟を起こし、工事を大幅縮小させました。
酒蔵通りを西に進むと西宮神社、「**えべっさん**」の総本山です。神社北側の産所町に住んでいた傀儡師たちは、全国を練り歩き、各地にえびす信仰を伝えていきました。

「たてじまアートプロジェクト」は 2009 年スタート。西宮今津高校から徒歩５分の新甲子園商店街を舞台に、地域を元気にするアートプロジェクトです。2011 年から始まった「**高校生×小学生アートボード**」は、小学生のイラストを高校生が拡大デザイン。毎年 10 月、新甲子園商店街アーケードを彩ります。

2016 年５～９月にかけて「エビスさま、あなたはだぁれ？」をテーマに、新しいエビス像を探す学びの旅「**エビスの教室**」（全５回）を開催。ヒルコであり、未知・異質・不具を本質とする「エビス」が、多様な価値観につながり、新たな表現を模索する原動力になることを学びました。

●エビスの教室 豪華講師陣　① 弾正原佐和さん（白鹿記念酒造博物館）　② 吉井良英さん（西宮神社祢宜）　③ 林僚児さん（アーティスト）　④ 陸奥賢さん（観光家）　⑤ 吉川由美さん（南三陸町きりこプロジェクト）

そして、これから始まる伝統芸能「**甲子園新名物 寅舞**（指導：豊来家玉之助さん）」プロジェクトがスタート。「寅舞」は、１２月に２年生が修学旅行先の沖縄伊是名島で披露します。また、地元の小学生と一緒に「地域応援ソング**♪じびきあみ～ゴ盆踊り**（音楽協力：パンダラーズ、踊り協力：小手川望さん）」を創作しました。

10 月 30 日（日）に、西宮市網引町公園で地元小学生を招いて「**えびすアートまつり**」を開催。「寅舞」「盆踊り」「創作えびすかき」を披露。高校生と小学生が一緒に遊びました。新甲子園商店街では、ご店主がイラストを描いてくれた小学生を表彰しました。

「たてじま」は良く「商店街を舞台にした地域活性化」「地域おこし」と言われます。「地域活性化」は誰にでもわかりやすい言葉で、マスコミ取材を受けると、必ずそう表現されます。これは半分「正解」で、半分「違い」ます。

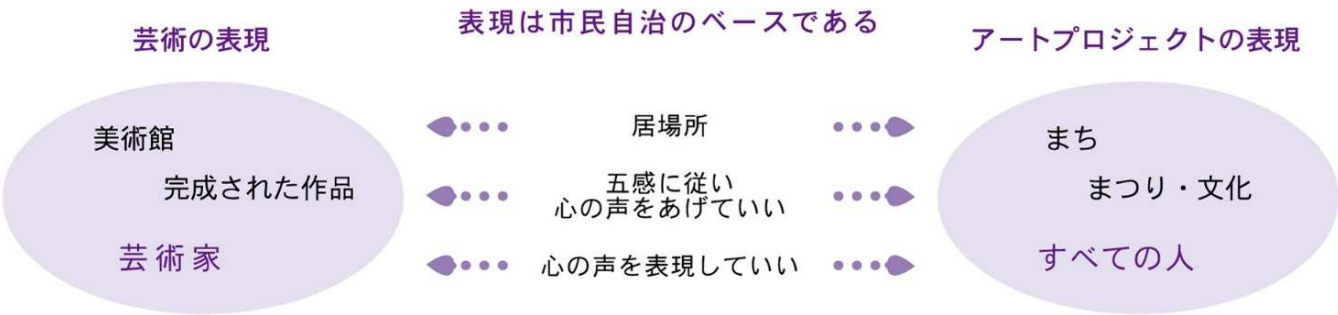
ここで、「たてじま」が考える「アートプロジェクト」を整理しておきます。

「**表現は市民自治のベースである**」（加藤種男さん）。

この考えに共鳴し、あたたかな「**居場所**」で、「**五感に従い、心の声をあげ**」、「**心の声を表現する**」。すべての人が、自分の街で、まつりや文化を楽しむ。これが、芸術家による完成された芸術の表現と対をなす「**アートプロジェクトの表現**」です。（次図参照）

「たてじま」は、高等学校美術系授業から生まれたプロジェクトとして、『**アートおこし…アートによる成熟した市民社会、一人ひとりの中にアートが自発的に生まれること**』（浅野吉英先生）を最終目的としています。

『アートおこし…アートによる成熟した市民社会、一人ひとりの中にアートが自発的に生まれること』



※兵庫県立西宮今津高等学校「文部科学省 平成２６年度 中・高校生の社会参画に係る実践力育成のための調査研究報告書」より

● 一乗・創造の谷プロジェクト

「一乗・創造の谷プロジェクト」さんは、2013 年スタート。一乗谷出身の朝倉さんが、Ｕターンして地元のお寺に帰ってきたことをきっかけに活動を開始しました。
かつて戦国時代に城下町として栄えた一乗谷は、戦国大名朝倉氏が文化を奨励し、荒廃した京の都から多くの文化人が集まったため、高い文化が花開きました。
今、過疎化の進む一乗地区ですが、自然豊かな場所であり、歴史資源や伝統行事・民話・それにまつわる人々の技などの文化資源が豊富です。そのような地域の宝（文化資源）の掘り起こしと発信をすすめ、地域内外の人々の交流を促し、地域に多様な価値観を持ち込み、「創造的な場」を日常的につくることを目的に活動しています。
活動拠点は、朝倉さんの実家でもあるお寺・浄善寺。定期的な寺子屋の開催や、文化資源のリサーチ活動、その発表を行うことで、かつての地域社会でお寺が担っていた、交流や文化創造の場としての役割を取り戻す試みを進めています。
これまでに、地域に伝わる伝統行事「**したんじょう**（５月）」の記録映像作成と上映会、今では４～５名しか作れない「**ちまき作り**（６月）」の記録と伝承のためのワークショップなどを開催しました。また、「**みんながアーティスト**」という企画では、地域の中にあるアート（地域ではあたりまえだと思われているけれども貴重な技など）を紹介するとともに、表現したい人が発表できる機会を設け、誰もが気軽に集い、表現できる場づくりを目指しています。

2. たてじまと 一乗・創造の谷さんとの出会い

「一乗・創造の谷プロジェクト」さんとの出会いは、もちろんＡＡＦ。2014 年別府報告会で興味深くお聞きし、動向をチェックさせていただいていました。お寺を拠点に活動されているプロジェクトは、たくさんいらっしゃいますが、浄善寺さんの企画の切り口のおもしろさと幅広さ、高い専門性に比して敷居の低さが心に残り、いつか行ってみたい。参加してみたい、と思うようになりました。

今年６月、卒業生の個展案内を facebook でアップしたところ、朝倉さんがいち早く反応してくださいました。その個展は、不登校経験を乗り越えた若手作家によるもので「居場所づくり」をテーマにしていました。
朝倉さんからの「作りたいものは、居場所。子どもたちの居場所。もう足が悪くて遠出できないお年寄りのみなさんの居場所。何でもない時でも居て良いんだよ、いつでも思い出したら来て良いんだよ、という場になれたら」というメッセージに、熱いものがこみ上げてきました。

老若男女問わず、地域全体を考える。頭ではわかっているつもりでも、普段、高校生と一緒にいると忘れてしまいがち。そんな気づきも得ることができ、一乗谷への思いが深くなりました。
「たてじま」は、前述の通り「アートプロジェクト」にとって「**居場所**」が大きな意味を持つと考えています。今回、この交流で、「居場所」としてのお寺でどんな「**アートおこし**」の現場に立ち会えるか、たてじまスタッフはワクワクしながら福井入りしました。

3.「アートと文化資源をつなぐ」トークセッション

「たてじまアートプロジェクト」主宰浅野吉英先生（兵庫県立西宮今津高校美術科教諭）から、ハートアートリンク岡山さんの資料より、金沢大学「**文化資源学**」についての説明がありました。
これらを踏まえて、熱いトークが繰り広げられました。

●**文化資源学とは・・・**

世界各国・各地域の文化を、「文化遺産」、「文化財」という言葉についてまわる価値評価から解き放ち、新たな価値を創造するための「文化資源」ととらえ直すことで、人類文化の総合的・多角的な研究と保護・活用法の開発を目指す、新しい学問分野である。
「文化資源学」という新設学問領域が担うのはまさに以上のような問題であり、「多文化共生」をさらに一歩進めた「**多文化共用**」という将来的課題である。
（金沢大学サイトより　http://crm.hs.kanazawa-u.ac.jp/crs/）

●**加藤種男**さん（公益社団法人企業メセナ協議会 専務理事）

ＡＡＦは 15 年に渡り、全国のアートプロジェクトをゆるやかに繋いできました。全国には 1000 以上のプロジェクトがあり、この 15 年で噴出してきました。私たち AAF の表現・社会への働きかけによって「やりたい気持ち」が触発されたからだと思います。そのひとつが、「たてじまアートプロジェクト」であり、「一乗・創造の谷プロジェクト」です。今まで資源と思われていなかったものを地域の宝として掘り起こして発信するということは、従来の考え方から言うとアートとは呼べないかもしれないですが、最近ではアートの意味合いががらっとかわってきて、地域の宝を掘り起こして発信することこそがアートだと考えられるようになってきました。アートの専門家からすると、「技術が」とか「デザインが」という話になりますが、そういうことではなく、もっと地域に根差したことを、アートと言っても良いのではないでしょうか。現にこういう活動によって、地域社会がちょっとは変わる可能性があるわけです。

一乗でやったちまき作りが非常に良いなと思ったのは、お年寄りが持っておられる技術、技術ともいえないような、昔からあたりまえにやってきた生活、暮らしや生き方を、若い者が教えてもらうというのが一番良いことだと思います。年寄りにとって最大の生きがいは、自分ができること、やってきたことが、そのままで価値ですよ、と言ってもらえることですから。

●**野村由香里**先生（福井県立高志高等学校 美術科教諭）

福井県では、日本画指導を推進しています。事前調べで驚いたのが、高校生が日常的にたたみやふすまなど「日本的なもの」に触れる機会があまりに少ない現実です。身体感覚で共有できないものは断絶するという話や、神話や民話を 12 歳までに学べない国は滅ぶという話などを耳にします。

文化財にしても、モノ対象で全体にはかけられないので、神社など一部だけ保護し、あとはぼろぼろで鎮守の森も消えていってしまうような状況があります。人口が激減して数十年後地方の市町村の 4 割が消滅すると言われている中で、文化というものを美術の工芸品という小さいものだけと捉えていたら、生活文化全体の価値観が消えてしまいます。そうしたら私たちのアイデンティティはどこにいくのでしょうか。

美術教育を、良い作品を作って、展覧会で観せて、という小さい枠で切ってしまったら、自分たちの首を絞めてしまうことになります。日本画の教育も、生活文化全体の中の美術ということを考える必要があり、家に和室がないなら、近所のお寺に自由に出入りできたりして、和室を味わい、その中でのしつらえや所作を考えることができたら良いのではないでしょうか。外国人も日本の文化や、建築など全体の雰囲気に憧れ、それを味わいに日本に来るのに、今や子どもたちもそれを知らないという環境にあります。空間の中の必然性ということを美術教育の中でも考えていく必要があると思います。

昔の人々は、すばらしい芸術を作るというより、生活に根差し、生活を豊かにしていく中で徐々にしつらえてきました。つまり生活者みんなそれぞれが芸術家だったんだろうと思います。そこに戻っていくという方向性はあるんだろうなと思いました。

●**朝倉恒憲**さん（真宗高田派浄善寺宗徒）

浄善寺の目指す姿は「集い、話し、聞く昔ながらのお寺」。華美なイベントで人を呼ぶのではなく、昔ながらの空間を残すことを大事にしたいと考えています。

「みんながアーティスト」も、外から有名な人を呼ぶというようなことより、ここにあるものを作品にしたいという思いでやっています。

「ちまき作り調査・アーカイブ」は、冊子が完成形ではありません。この記録を元に、改良を重ねて、続けていこうと思います。

この地区の良いところであり、都会から入った自分にとって大変なことは、何でも手作りで、毎年作って壊すということを繰り返すことです。伝統行事したんじょうの獅子も、毎年「去年はああだったこうだった」と言い合いをしながら、作っています。でもそれが地域の人のコミュニケーションになり、それを周りの人が見ることで伝わっていくのだろうと思います。
過疎化で人数が少なくなっていく中で、そういう伝統をつないでいくのは、いつまでも地域にあり続けるお寺の役割です。お寺には、語り継いでいく「語り部」としての任務があると考え活動しています。

●**朝倉由希**さん（一乗・創造の谷プロジェクト主宰）

「お寺」であること ― 昔から人があつまるコミュニティーの中心の場・文化の創造の場 ― を活かし、独特の空間や地域における役割をより考えたプログラムとは？　そこにおける「アート」とは？を考えています。
ちまき作りのアーカイブ活動は、ちまき作りという地域資源自体をアートと捉えたものです。
都会にはない自然環境を価値と捉え、自然と人の関係の中で生まれてきた文化を大切にしたいです。お寺から地域へ、面的な広がりを持つには、地域全体をフィールドにした活動へ広がる必要があると思います。野村先生の「日本の生活文化に触れられる場としてのお寺」というお話は、お寺の機能について大きなヒントをいただけたと思います。

●**前田豊稔**先生（ナチュラルアートハウス代表・元甲南女子大学 准教授）

浄善寺の朝倉さんが地域の「語り部」と最後におっしゃいましたが、寺だったら地域の「語り場」ーそこで人が出会い交流する場ーとして提供されることが、考えていらっしゃることかなと思いました。
「ちまき」には可能性があると思います。「かや」の利用は今、大きく注目されていますが、「笹」はまだです。笹を利用するということはあまりにもないです。笹で包むとおいしくなる、いろんな包み方がある。また笹で遊ぶ、夏の七夕など、いろんなことができそうです。笹を使ってきれいな笹が生えてくる村に回復していったら良いと思いました。記憶の中に残る風土を足掛かりにして、現代の子どもたちがどうかかわれるのかを大人がアイディアを出すことが大事だと思いました。

●**高橋タケシ**先生（甲南女子大学 非常勤講師）

お寺という場があるのは良いなと思いました。
展覧会を企画する際に、ホワイトキューブの会場などでは「作品のストック、あるよ。出せるよ」という感覚で出展話がすすむことがあります。僕は、ホワイトキューブではない会場で、その会場のためだけの表現を追究したい。そんな思いで、俵屋宗達の「風神雷神図」で有名な京都・建仁寺の禅居庵さんを会場としてグループ展を開催したことがあります。建仁寺さんの凛とした空間のための作品展「マリー・アントワネットの冷や汗」展。お客さまの困惑と感動が混ざった、真夏の白昼夢のような展覧会でした。
僕たちは四季折々の恵み豊かな日本に暮らしているのに、宝の持ち腐れになっていると思います。美術を教える立場として、教科書にあるような絵の描き方というより、生活に密着した作法などを体験するということも授業の中で取り入れられたら良いなと思いました。
お寺でアート、最高です。

●**浅野吉英**先生（兵庫県立西宮今津高等学校 美術科教諭）

その場に生活していると、何にも見えない、当たり前になっていることがたくさんありますが、外側から漂着してくるもの ― エビス的なもの ― は、変容の力を与えてくれます。
たとえば、太神楽芸の豊来家玉之助さんが、高校生の中に交じると、高校生が変わりました。
普段感じない自然や神さまの力を、外部の人が感じさせてくれたからでしょう。
本来あるけどここにないものを、どうひっぱって生きていくのか。これが鍵になりますね。

＜参加者の声＞

●**谷川桐子**さん（アートるんるんプロジェクト）

30 代のアート好き女子で、アートを身近に体験できる場を作ったりして、福井のアートをもっと面白くすることをコンセプトに活動をしています。
浅野先生のお話では地域のエビス様という地域の大事な資源を掘り起こした活動をされていて、一乗では代々伝わるものを残す活動をされているお話をうかがい、私たちが忘れかけているけれど、本質的に大事だとみんなが思っているものを、現代の私たちがもう一度面白いよね、すごいよねと、みんなで一緒に体感することが大事なんだと思いました。それを、皆さんは再発見されて伝えていこうとしているのだと感じました。
高尚な芸術だけでなく、身近なものを体感する大事さを再認識しました。

●**荒川裕子**さん（NPO 法人福井芸術・文化フォーラム）

福井の文化振興に携わっています。今日お話をうかがっていて、共感することがありました。どんなプロジェクトでも、思ったように進まなかったりしてなんでも一筋縄ではいかないことがあるのだと。私もよくそういうことをやっているね、よくそんなことに手を出しているねと言われるようなことが多々あります。自分のなかでのビジョンがあってやっていても、つい弱気になることもありますが、新しいことをやる人はそういうことを乗り越えてステップアップしていくんだなと思い、楽になった気分です。

●**泉佳伸**さん（敦賀市）

「アート」の日本語訳は「芸術」と思っていましたが、此処で取り上げられた「アート」は、もっと広くもっと深いものだと感じました。単に「教養」、「教養教育」と訳される「リベラルアーツ」とも又違う。『コミュニティーでの協働』が、西宮の「たてじま」も、「一乗・創造の谷プロジェクト」もキーワードになっていますね。コミュニティーのサイズも、年齢層も、背景も違うであろうのに、西宮と一乗での取り組みには共通点があり、これからの少子高齢化や過疎化の時代に向けて、どの地域もこの様な活動が大事になっていくと思いました。
お寺や神社は地域の人寄り場所でもあり、交流の場。その様な所から今に繋がる落語が京都で生まれた点や、歌舞伎や講釈（講談）の事など、あれこれと考えるキッカケを頂きました。

4．２日めイベント

午前中は「**三峯城跡探索ウォーク**」（主催：一乗公民館）。標高 405m。南北朝時代の連郭式山城を目指して歩きました。
三峯村跡大いちょう公園では、朝倉夫妻によるミニコンサート。
みんなで「ふるさと」「もみじ」を歌いました。

鹿俣に戻ってから、朝倉さんのお母さまを始め、地元の皆さんが用意してくださった「しし鍋とおにぎりランチ」をいただきました。地元の柿も、甘くて美味！ 地元の方とのふれあいで、心も身体もほかほか温まりました。

午後からは、浄善寺で「**第２回 みんながアーティスト**」。まずは、朝倉恒憲さん率いる「煩悩 s」の演奏。２組めは、朝倉さんのお友だち K.MURAI のアコースティックギターライブ。お寺のお堂での演奏は、声と楽器が心地良く響きます。出演者の皆さんが、真剣に朗らかに、心から楽しんで演奏しているようすに、観客席から「次は、私が出たい！」という声が聞かれました。

続いて「一乗・創造の谷プロジェクト」さんが６月に撮影された「ちまき作り」の冊子とビデオが完成し、上映会が行われました。今では４～５名しか作れない鹿俣町集落の「ちまき」。映し出された「ちまき」は青くみずみずしく、初めて鹿俣のちまきを見る私たち県外者も、ビデオに出演された地元の方からも「キレイ・・！」と感嘆の声が上がりました。

関西に帰るために、早めに浄善寺を出ました。帰りしな、一緒にビデオを見た地元の方に声をかけると「来てくれて、ありがとう。気をつけて。また来てね」爽やかな笑顔で送ってもらいました。うれしかったです。

5.「アートと文化資源をつなぐ」トークセッションを終えて

１日めは、「アート」「文化資源」の意味を、トークセッションの形式で考え、深めました。
２日めの「三峯城跡探索ウォーク」「みんながアーティスト」で、１日めの思いを十二分に体感することができました。

一乗谷鹿俣という、歴史と自然あふれる土地。
浄善寺という、あたたかな「居場所」。
地元を愛し、鹿俣に戻ってきた朝倉由希さん。「ちまき」ビデオ上映の後、亡くなられた由希さんのおばあさまのことを思い出される姿に、私も優しかった祖父母を思いました。
そして、何より、由希さんを支え、県外から寺の跡取りとして村入りされたご主人の朝倉恒憲さん。力強い言葉で語られる、浄善寺さんが目指す未来に、地元の皆さんはきっと頼もしく、うれしく感じていらっしゃったと思います。
「ちまきも、記録を作ることが目的ではない。地元に伝わる風習を、これからも何百年も伝えていくこと。」
その潔い決意に、会場から、「ちまき作りに参加したい！」という声が聞かれました。
たった数時間のイベントでしたが、観客を惹き込み巻き込み、自分も参加したい！と心を動かす。それが次の行動につながる…。

「**居場所**」であり「**五感に従い心の声をあげていい**」
「**心の声を表現していい**」

これこそ「たてじま」が目指す「**アートおこし**」！
静かな感動が心に広がりました。

「お寺が、アートと文化資源をつなぐ居場所になる」ことを、今回しっかりと体験することができました。

由希さんがトークの中で投げかけておられた「お寺の独特の空間や地域における役割をより考えたプログラムとは？」「そこにおけるアートとは？」との投げかけに対して。
「たてじま」の「アートおこし」からのご提案は、居場所としてのお寺、場所の持つ力を最大限利用することです。
表現できる「居場所」を提供し続けることで、お子さんから年配の方まで、地域の皆さんが、自ら表現したい！という欲求を高め、自発的に生まれる「何か」こそが、「お寺のアート」ではないでしょうか？
何が飛び出すか、楽しみです！ 検証のためにも、是非ともまた、お伺いしたいと思います。

では、私たちの「たてじまアートプロジェクト」は？
お寺とは、運営形態も、地域的紐帯の強さも違う学校＆商店街の組み合わせ。「たてじまアートプロジェクト」は、今後どう進んでいくべきなのか？
大きな宿題をいただいたような気がします。

今回の交流を終えて、「たてじまアートプロジェクト」主宰の浅野吉英先生に、総括文をお願いしようと思ったのですが、帰宅されてすぐに書かれた facebook 用のこの文が私の心に響きました。きっとどんな論文よりも、私たちが体験した感動をお伝えできると思い、掲載させていただきます。

あれから１週間以上が経ちますが、たてじまメンバーは、まだ、深くて美しい感動の中にいます。
来年、笹の葉が青々と輝くころ、一乗谷で朝倉さん始め、鹿俣の皆さんにお会いできることを楽しみにしています。

6. たてじまアートプロジェクト　浅野吉英先生から

一乗・創造の谷　みんながアーティスト企画に参加する。浄善寺の本堂の澄んだ空気と、ゆっくり、あたたかくながれてゆく時間が素敵だった。
鹿俣町でおばあちゃんたちがあたりまえに作っていた「ちまき作り」、6 年前を最後につくられていなかったという。
昔のようにみんなでちまきをつくり、つくり方を冊子にまとめ、その過程を記録映像にまとめられ、今日は、その上映会。ちまきづくりに参加した出演者であるおばあちゃんたちと共に見た。
笹の包み方が、折り紙のように美しい。茹でる時には、扇のように束にする。その 10 本のちまきがスクリーンに映ると、画像を見ていた出演者のおばあちゃんたちが口ぐちに「きれいなぁ。」とつぶやく。
ほんとうにきれい。
あたりまえに伝えられてきた「ちまき作り」は、一乗・創造の谷プロジェクトが光をあてた文化資源だ。冊子に

まとめ、映像にして、おばあちゃんたちが「きれい。」と再認識するプロセスが胸にくる。
ダジャレ企画も面白いなぁ。
いいところだなぁ。いいお寺だなぁ。
と、つぶやきながら帰途につく。

AAF に初めて参加した 4 年前は、ネットワークを作ってなんになるんだろう？ ネットワーク以前に自分たちの活動の中身や運営のあり方をどうしたらいいのか、という内向きの課題がありすぎて、ネットワークがもたらしてくれる豊かさに全く気がつく余裕がなかった。

けれども、**林僚児**さんと一緒に高校生の傀儡芸能「創作えびすかき」を作ったり、**田野智子**さんの仲介で高校生たちと岡山県笠岡市笠岡諸島の白石島に行って、「白石踊り」の練習に参加させてもらったり、**小手川望**さんにこどもと高校生との「地域応援ソング♪じびきあみ～ゴ盆踊り」共同創作をしてもらったり、ENVISI の**吉川由美**さんに西宮に来ていただいて、南三陸のアートプロジェクト「南三陸 福幸きりこプロジェクト」のお話をしていただいたり、天王寺学館高校の**佐藤隼**先生が小豆島

中山自然美術館で開催した「種まきプロジェクト」、大阪府立江之子島文化芸術創造センターでの「種展」に行ったり、天王寺学館高校の生徒さんが西宮に来て、「たてじまアートプロジェクト」のオープニングセレモニーに参加してくれたり…。
そんな交流を続けていると、突然、西宮今津高校生たちになんらかの成長が起こるのを何度も目撃した。実行委員会メンバーもまた外の世界にどんどん自分たちの意識が開かれてゆくのを感じる。これは素敵なことだ。

三峯城跡探索ウォーク、みんながアーティスト企画を抱えるタイトな日程の中、たてじま実行委員会を受け入れてくださった一乗・創造の谷の**朝倉夫妻**には心より感謝している。
観客として地域のみなさんと参加すると「へーぇ、西宮から、そんな遠いところから」と、びっくりされるのにびっくり。一乗谷の「ちまき作り」という宝物は、地域外のよそものがいることで、地域の価値としてより意識されるのかもしれない。地域の文化資源は、外に向けて発信され、よそものも巻き込むことで、価値づくりになる。そう考えるとローカルとローカルは、さまざまなネットワークを形成することが、大変意味ある営みなんだと、改めて AAF ネットワークの重要性を感じるのだった。
いつもは、西宮でしか顔を合わさない実行委員会メンバーが、一乗・創造の谷を訪れると「なんていいところなんだろう。」という共感がひろがり、やっぱりみんな里山志向だったんだ。と、メンバーの西宮では見えない面を改めて感じたりする。交流はそんな気づきももたらしてくれる。

7. タイムテーブル

●11 月５日（土）

14:00～15:00　**プロジェクト事例発表**

- 一乗・創造の谷プロジェクト（福井県福井市）
- たてじまアートプロジェクト（兵庫県西宮市）

15:00～16:00　**文化資源からアートへのつなぎ方トークセッション**

＜トークセッション主な参加者＞

- 加藤種男　（公社）企業メセナ協議会専務理事
- 朝倉恒憲　一乗谷・真宗高田派浄善寺衆徒
- 朝倉由希　一乗・創造の谷プロジェクト主宰
- 野村由香里 福井県立高志高等学校美術科教諭
- 前田豊稔　ナチュラルアートハウス代表
- 高橋タケシ takeshi factory 代表
  甲南女子大学非常勤講師
- 浅野吉英　たてじまアートプロジェクト主宰
  兵庫県立西宮今津高等学校美術科教諭

●11 月６日（日）イベント

＜午前＞　三峯城跡探索ウォーク

一乗地域魅力発信事業、主催：一乗緑と歴史のまちづくり推進会／一乗・東郷自然と歴史散策事業、共催：鹿俣町歴史と自然を守る会／一乗公民館

＜午後＞　みんながアーティスト

主催：一乗・創造の谷プロジェクト

8. 報告チーム

＜代表＞

●**浅野吉英**　ASANO YOSHIHIDE
たてじまアートプロジェクト実行委員会
兵庫県立西宮今津高等学校 美術科教諭

●**朝倉由希**　ASAKURA YUKI
一乗・創造の谷プロジェクト
福井県立大学、静岡文化芸術大学、東京藝術大学
非常勤講師

＜報告書まとめ作業・チラシ作成＞

●**津田郁子**　TSUDA IKUKO
たてじまアートプロジェクト実行委員会メンバー（記録・広報・ＤＴＰ担当）
兵庫県立西宮今津高等学校 美術科 非常勤講師
大阪ＹＭＣＡ国際専門学校 表現・コミュニケーション学科 情報科・美術科 非常勤講師

浅野先生にかわり、今回、報告書をまとめさせていただきました。内容チェックとあわせ、大量のトークセッション文字起こしは、朝倉由希さんが担当くださいました。今回のセッションを大切に思ってくださるお気持ちが、本当にありがたくうれしかったです。ここで改めてお礼申し上げます。朝倉さん、ありがとうございました！
終了後は、アサヒスーパードライで乾杯！ 楽しい夕餉となりました。

（2016 年 11 月　津田）

ASAHI ART FESTIVAL 2016

AAF2016 交流支援プログラム

たてじまアートプロジェクト NISHINOMIYA HYOGO 2016

福井・一乗谷で開催！

文化資源とアートのつなぎ方を考える

トークセッション

～福井一乗谷・西宮甲子園の事例から～

地域で伝承されてきた民俗行事したんじょう

住民運動で守られた美しい甲子園浜
阪神甲子園球場
えびす宮総本社西宮神社

兵庫県西宮甲子園と福井県一乗谷。それぞれの「文化資源」からアートへの「つなぎ方」を交換しあい、アートや美術教育の可能性について、考えを深めあうトークセッションです。

2016年11月5日㊏ 14:00～16:00

真宗高田派 浄善寺
福井市鹿俣町 47-7

スケジュール

14:00～15:00	**プロジェクト事例発表** ●たてじまアートプロジェクト（兵庫県西宮市） ●一乗・創造の谷プロジェクト（福井県福井市）
15:00～16:00	**文化資源からアートへのつなぎ方 トークセッション** 座談会形式の楽しい会合です。 是非、ご参加ください！

※イメージ

トークセッション 主な参加者

- **加藤種男**（公社）メセナ協議会 専務理事
- **朝倉恒憲** 一乗谷・真宗高田派 浄善寺 衆徒
- **朝倉由希** 一乗・創造の谷 プロジェクト主宰
- **野村由香里** 福井県立高志高等学校 美術科教諭
- **前田豊稔** 神戸ナチュラル アートハウス代表
- **高橋タケシ** takeshi factory 代表 甲南女子大学非常勤講師
- **浅野吉英** たてじまアートプロジェクト主宰 兵庫県立西宮今津高等学校美術科教諭

アクセス

一乗谷朝倉氏遺跡より南に約3Km

＜最寄り駅＞
JR九頭竜線 一乗谷駅

＜自家用車＞
北陸自動車道 福井IC
R158を東へ
天神交差点 右折
県道31→県道18→
県道238を南へ

参加申込

11月3日㊍までにメールでお申込ください

参加無料 artokoshi@hotmail.co.jp

主催

- 一乗・創造の谷プロジェクト
- たてじまアートプロジェクト実行委員会

＜協力＞ 真宗高田派 浄善寺
＜助成＞ 公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団　＜特別協賛＞ アサヒビール株式会社

一乗谷に遊びにきてね！

11月6日㊐のイベント

午前 **三峯城跡探索ウォーク**
＜一乗地域魅力発信事業＞
標高405m。南北朝時代の連郭式山城を目指して歩きます。
問合せ：一乗公民館 TEL 0776-43-2001

午後 **みんながアーティスト**
主催：一乗・創造の谷プロジェクト

一乗・創造の谷プロジェクトとは

2013年スタート。一乗谷の中の地域一体に魅力的な場、地域全体が持続的に様々な人をひきつける場「文化創造拠点」をつくるプロジェクト。
2016年は、地域に伝わる行事記録や子どもたちを交えてのアートイベントなど、浄善寺を舞台にプロジェクト進行中。

■【7月10日】みんながアーティスト

地域の昔の写真・詩、若手アーティストや子どもたちの作品展示、ライブなど

■【6月12日】ちまき作り＆講座

今では4〜5名しか作れない鹿俣町集落のちまき作りを記録しました。

たてじまアートプロジェクトとは

2009年スタート。兵庫県立西宮今津高等学校美術系選択授業から生まれた地域を元気にするアートプロジェクト。
2016年テーマ「エビスさま、あなたはだぁれ？」。
新しいエビス像とこれから始まる伝統芸能を創作しています。

昭和初期、浜でのイワシの天日干し

住民が守った美しい甲子園浜

甲子園で苗栽培されていた甘いも

傀儡の故郷 えびす総本社 西宮神社

【2009年】アリガトゥース

【2010年】商店街の顔

【2011年】高校生×小学生

【2012年】高校生創作えびすかき

【2013年】♪じびきあみ〜ゴ

【2014年】ぼくらのまちコウシエン

【2015年】高校生傀儡の旅

【2015年】阪神間モダニズムの歌

■たてじまアートプロジェクト2016 えびすさま、あなたはだあれ

これからはじまる伝統芸能

甲子園 新名物 たてじま 寅舞とらまい 指導:豊来家玉之助さん

小学生×高校生共創 ワークショップ盆踊り 協力:小手川 望さん

新甲子園商店街で こども・高校生・お店 えびす展示

10月30日㊐網引公園 えびすアートまつり開催！

エビスの教室 2016年5月28日〜9月3日 西宮市網引市民館

白鹿記念酒造博物館 弾正原 佐和さん

西宮神社 祢宜 吉井 良英さん

アーティスト 林 僚児さん

観光家 陸奥 賢さん

宮城県南三陸町 きりこプロジェクト 吉川 由美さん

11月5日㊏ トークセッション 主な参加者プロフィール

トークセッションは座談会形式です。事前にメールで申込いただければ、自由に参加いただけます。 artokoshi@hotmail.co.jp

●朝倉恒憲

一乗谷・真宗高田派 浄善寺宗徒。外資系製薬会社に勤務しながらお寺と地域の未来を探る

●朝倉由希

一乗・創造の谷プロジェクト主宰。静岡文化芸術大学、福井県立大学、東京藝術大学の各非常勤講師

●野村由香里

福井県立高志高等学校美術科教諭。福井県造形教育研究会事務局

●加藤種男

AAF立ち上げ人。文化力による住民主体の持続可能な地域づくりを推進。(公社)メセナ協議会専務理事

●前田豊稔

神戸ナチュラルアートハウス代表。西宮市・神戸の小学校と甲南女子大学で、美術教育に携わる

●高橋タケシ

takeshi factory主宰。AAF2015N枠採択。甲南女子大学非常勤講師

●浅野吉英

たてじまアートプロジェクト主宰。兵庫県立西宮今津高等学校美術科教諭